

**令和6年度第1回久留米広域連携中枢都市圏  
ビジョン懇談会全体会議事録**

(1) 日 時：令和6年8月26日（月）10：00～11：30

(2) 会 場：久留米市役所4階 401会議室

(3) 出席者：

＜委員＞

伊佐淳委員（座長）、穴見英三委員（副座長）、實藤俊彦委員、赤尾哲之委員、石橋和典委員、古賀亮史委員、緒方博子委員、田籠正規委員、首藤有一委員、富永明委員、岡村亮委員、吉岡マサヨ委員、眞子佳子委員、藤高尚樹委員、宮本明子委員、下川裕二委員、江口訓史委員、中島佳奈美委員

＜事務局＞

久留米市総合政策部 松野部長 総合政策課 深堀課長、坂田主幹、大島主査、佐藤主任主事

＜構成市町＞

うきは市企画財政課・企画調整 権藤係長、大刀洗町企画財政課 松元課長  
大木町企画財政課川村課長

＜ワーキンググループ職員＞

※ワーキンググループは、以下WGと表記

(4) 欠席者：

吉田誠委員、益村千夏委員、野口裕子委員、

(5) 次第及び議事：

<b>1 開会</b>	
<b>2 新任委員紹介</b> 事務局から新任委員5名を紹介。	
<b>3 座長の選任について</b> 座長は伊佐委員とする事務局案を提案し、了承された。	
<b>4 久留米広域連携中枢都市圏ビジョンについて</b> <b>(1) 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画について</b>	
事務局	[令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画について説明]
座長	委員の皆様の意見・質問をいただきたい。
座長	資料1の説明資料の令和5年度の事業実績と令和6年度の事業計画に記載されている事業の項目が異なるのはどのような意図か。
事務局	令和6年度に新たな取組を行うものや、動きがあるものについて、抜粋して記載をしているもの。
座長	観光サイクル事業について、スタンプラリーは、紙媒体か電子媒体どちらで

<p>広域観光・MICE WG</p> <p>事務局</p> <p>座長</p>	<p>実施するのか。また、首都圏等における情報発信事業について、ポータルサイトの更新頻度はどれくらいで行っているのか。</p> <p>基本的にはデジタルで行っている。今回のスタンプラリーは自転車で移動するため、スマホをかざしてポイントが加算される仕組みである。</p> <p>ポータルサイトについては、久留米市が中心で運営し、各市町が広域的なイベントを毎月更新している。担当者間で連携しながら取組を進めているところである。</p> <p>ホームページやポータルサイトは更新頻度を上げることがアクセス数を増やすことに繋がっていき、さらにSNSを活用するとユーザーの注目を集めるために、新しい情報を発信していくことが重要になると思う。スタンプラリーにしても、以前が紙媒体一辺倒だったものがDX化して、デジタルを活用しているものなのか確認をしたかったところ。ぜひ成果があがることを祈っている。</p>
<p>(2) 成果指標について</p>	
<p>事務局</p> <p>座長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>座長</p>	<p>[成果指標について説明]</p> <p>成果指標について委員の皆様の見解・質問をいただきたい。</p> <p>久留米市美術館の入館者数について、実績値が目標値に近づいているという分析をされている。一方で、決算額と予算額を比較すると、予算額が決算額よりも減っているの、どのような理由か教えてほしい。</p> <p>久留米市美術館については、コロナの影響で入館者数が落ち込んでいたが、新たな魅力ある展示など様々な企画をされており、入館者数は回復の兆しがあるため、そのような記載をさせていただいた。事業費に関しては、十分に確認が取れていなかったの、確認の上、回答したいと思う。</p> <p>久留米市美術館の入館者数については、コロナ禍を経て非常に入館者数が鈍っている。観光客も戻ってきていないため、回復は非常に難しいところ。しかし、令和8年度には、美術館と記念館が開館10周年を迎え、石橋文化センターも開園70周年を迎えるので、そういうものを契機に入館者数を回復させたいと考えている。ご出席の委員の皆様にもぜひご協力をお願いしたいと思っている。</p> <p>直接的に関連性はないかもしれないが、大刀洗町に子育て世代の転入が多くなっているという新聞記事を読んだ。何か関連してご紹介いただけることなどがあればお願いしたい。</p>

大刀洗町	大刀洗町の子育て支援については、0歳から15歳まで切れ目のない、様々な支援を行っている。保育料については、近隣自治体よりも若干引き下げているため、そういった面で選ばれていると思われる。このような取組を継続的に実施した結果、年少人口が15%で近隣よりも高い数字となっている。
副座長	連携中枢都市圏に行政が中心となり取組ことは素晴らしいことだと思うが、目に見えるような形で結果ができれば非常に良いと思う。第2期ビジョンが令和7年度までとなっているが、第3期ビジョンについては、事務局としてはどのような考えをお持ちなのか。
事務局	連携中枢都市圏の取組に関しては、具体的な成果が見えにくいものであると理解している。第2期ビジョンでは、住みよい圏域づくりということを目標に頑張ってきたので、第3期に向けても何か取組を進めていきたいと考えている。第3期に向けた具体的な方向性は持ち合わせていないが、現在連携して取組を進めている事業については、着実に進めていくことが必要だと思う。久留米市を中心として、持っている都市機能をどのように生かしていくのか、どのように4市2町で連携すれば、連携市町への波及効果が生まれるのかということを念頭に置きながら、事業の組み立てを考えていきたい。
<b>5 その他</b>	
座長	全体を通して、委員の皆様の意見・質問はないか。
委員	今、危機感を感じているところは、商工会の会員が右肩下がりで非常に減っていること。特に後継者不足による、事業者の廃業、地場産業の衰退で会員が異常に減っている。東京にアンテナショップがあったときは、アンテナショップを拠点に営業に行くことができていたが、現在はどこに営業に行けばいいのかわからない状況なので、地場産業の事業者が首都圏等に売り込みにいける環境を整えてほしいと思っている。また、令和5年度決算や6年度予算を見ると、予算規模が大きくなっているとは思いますが、地場産業の特色が失われていると思う。大手企業を誘致することも大切だとは思いますが、伝統的なものを継承していくことも大切である。地域でコツコツとものづくりをされている方や今後何かクリエイティブなことにチャレンジできるようなまちづくりになってほしい。子育て支援や医療なども大切だとは思いますが、経済的な基盤や賑わいにも比重を置いてほしいと思う。
産業振興WG	具体的な事業としては、物産展への出展事業を地場産くるめが中心となり全国各地の物産展や福岡県庁ロビー、天神地下街のイベントコーナーに圏域内の特産品を出展している。出店品としては、久留米市の商品が中心となってきているので、他の市町の特産品をもう少し提案できるとより良くなるということで、課題をヒアリングしている。もう一つは、地域経済分析等による産業支援事業で事業承継や商工会会員の減少など、各市町が抱える共通の課

	<p>題をワーキンググループで意見交換をさせて頂いており、連携中枢都市圏事業として組み込めるものを検討していきたいと思っている。</p>
委員	<p>物産展への出展は一過性で終わっているものが多いように感じる。アンテナショップは常設の店舗を構えていたので一過性ではなかった。地場の大手企業のビジョン懇談会の委員になって頂いているので、民間企業とも連携して取組ができる可能性があるため、取りまとめをお願いしたいと思う。</p>
委員	<p>連携中枢都市圏ビジョンの中で色々な計画を進めてあると思うが、情報の共有化や情報提供が基盤として非常に重要だと思う。現在、市町間で情報の共有化はどのような取組をされているのか。そこにDXを取り入れるとサービスの範囲が広がっていくと思うので、今後、取組む予定があったら教えていただきたい。</p>
事務局	<p>それぞれの取組分野でワーキンググループがあるので、ワーキンググループごとに適宜、意見交換や情報共有を行って頂いている。事務局として、各ワーキンググループの状況を踏まえつつ、全体の進捗管理を含めて、事務方の担当課長級の会議から首長級の会議で出された意見や課題を市町間で共有させてもらっている。</p>
委員	<p>市町が連携して取組みを進めているなかで、効率的に進めていくということが連携して取組んでいることの意義だと思うので、そこに情報共有があれば市町に同時に情報が入ってそれぞれが対応できるなど、そういった環境が必要だと思う。</p>
委員	<p>小郡市はコストコを誘致して11月にオープン予定となっているが、人の流れが大きく変わると思われるので、市町が連携して、上手く活用をしていければと考えており、地域の特産品や歴史があるものをアピールできる良い機会と捉えている。このような取組は一過性で終わらせるものではなく、予算の関係もあるとは思うが、地域として拠点を作ってしっかりとアピールしていくことが重要だと思う。</p> <p>子育て支援に関連する内容で、コロナ禍を経験した子どもたちなど、時代に沿った居場所の提供が必要で、特に15歳以上の大人になる大事な過程の時期のフリースクールやオープンスペースなどで、居場所の提供を行って何かを学ぶ機会を与えてあげることがあっても良いと思う。社会の流れを見て、子育て支援に関して、今後のお考えがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>情報発信については、以前、アンテナショップを活用して実施をしていたが、それに代わるものとして、首都圏等に広く圏域の魅力を発信していくために、昨年度、ポータルサイトを開設して運用している。1年間で約1万6,40</p>

	<p>0件のアクセスがあったが、さらに、サイトへのアクセスを誘導できるように、圏域の魅力や売りになるようなものを広く発信していきたいと思う。圏域の市町とともにコンテンツを検討しながらより良いものにしていきたいと思っている。</p>
子育て支援WG	<p>現在の全国的な状況としては、子ども基本法が制定され、子ども大綱の中で、子どもの居場所づくりが柱の一つに掲げられ、国が取り組んでいる状況。特に子どもの居場所づくりについては、児童福祉法などに縛られずに、支援が必要な方を事業の対象にしていくことが掲げられている。久留米市を含めて、連携市町が学校、家庭だけではなく、第3の居場所として検討を進めている段階であり、具体的な内容については、予算が関連してくるため、引き続き、検討を進めている状況である。</p>
座長	<p>コストコの話があったが、最近では、TSMCの進出などで賑わいが生まれており、地場産業の活性化にどのようにつながられるかということが多方面で言われている。久留米市の場合は、インバウンドまでなかなか取組んでいけないというところがあり、伝統的なものは、外国人に好まれるので、アピールする機会があれば良いと考えている。スマートインターチェンジの活用なども圏域の中で情報を寄せ合って、どのように活用していくかなどを検討しても良いと思われるし、子育て支援に関しても、市町間で情報を共有し合い、NPOやボランティア団体などとも協力しながら、協働のまちづくりを進めていくことも手法の一つである。各委員から発言があった内容については、ワーキングのなかで取り上げていただき、新しい取組ができれば、ビジョン懇談会の委員に共有をしていただくと成果に繋がっていくのではと考えている。</p>
委員	<p>公共交通利用促進事業で、圏域市町のご理解、ご協力をいただき、利用促進に向けて連携して取組みを進めている。ビジョンに記載されている将来像や魅力あるまちづくりと交通というものは、必ず一緒に進めていかなければならないと思っている。一方で、公共交通事業は非常に人材不足で、利用者がいても、運行ができないという状況に陥っている。連携中枢都市圏事業にある、地元企業採用支援事業で多くの説明会を開催していただき、乗務員の採用活動を実施させて頂いているが、ビジョンの次のステップになるかもしれないが、公共交通を守っていくためにも利用促進だけではなく、そもそも人材を確保しておく必要があるということで、ぜひ、そういった視点で事業をお願いしたいと思う。</p>
事務局	<p>連携中枢都市圏の基本的な考え方に、コンパクト化とネットワーク化というものがあり、公共交通についても大きく関連し、人材不足は重要な課題であると認識している。先日、福岡県を中心に圏域会議が開催され公共交通をテ</p>

<p>委員</p> <p>座長</p>	<p>ーマに議論がなされている。各自治体が抱えている課題や取組に関しては、今後注視をしていき、第3期に向けて所管課とも協議をしながら、進めていければと思う。</p> <p>先ほど事務局からご説明頂いた内容に関して、若干補足をさせていただく。圏域会議では、地域公共交通に関して、県と副首長で意見交換をさせていただいた。現状としては、バスや電車の運転手だけではなく、タクシー運転手が不足しているということで、副首長は非常に強い危機感を持っている。意見交換で出た内容を今後どのように進めていくかは模索しているところではあるが、行政だけでできることではなく、事業者とも、議論をしていかなければならないことから、連携中枢都市圏の事務局とも相談しながら、議論を深めていきたいと考えている。</p> <p>重要な問題であるため、ビジョンにも反映していけると良いと思う。</p>
<p>6 閉会</p>	